

初等・中等教育における アントレプレナーシップ教育の実践的研究

— 起業体験プログラム アントレクエストを通じて —

白石 瑛 人
椎名 希 美
岩城 圭 司
杉村 逸 郎
白樫 真 紀
福永 祐 作

1. 序 論

1. 1. アントレプレナーシップについて

アントレプレナーシップという言葉は、アイルランド系フランス人経済学者 R. Cantillon が 18 世紀に出現した新しい産業の担い手をアントレプレナーと呼んだ¹⁾ことが起源である。その後、経済学者の J. A. Schumpeter が「新結合 (innovation)」の遂行、もしくは「革新」の担い手をアントレプレナー (企業家) と呼んだ²⁾。更に P. F. Drucker は「変化を捜し求め、変化に対応し、変化を機会として積極的に利用していく、これがアントレプレナーとアントレプレナーシップの定義である。」と示し、アントレプレナーとしての原理や方法などを体系的に提示し、アントレプレナーシップは習得可能であることを論じた³⁾。現代においては、先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態を指す VUCA の時代と呼ばれていることを背景に、これからを生き抜く力としてアントレプレナーシップの醸成が注目を浴びている。

アントレプレナーシップ教育について、兼本は狭義解釈と広義解釈があり、起業家を育成するための教育で、ビジネス知識等の直接的な能力の醸成を目的

としたものは狭義的な立場とし、一方で起業家精神を育成するための教育で、起業家にならずとも組織内で改革の担い手となるためのものは広義的なアントレプレナーシップ教育と定義している⁴⁾。また、栗島が、大学におけるアントレプレナーシップ教育の成果は、ベンチャー企業の設立件数だけで測られるものではなく、いかにアントレプレナーシップを育成し、社会人としての基礎力に結びつけていけるかが重要だと述べている⁵⁾。

以上を踏まえて、我々の研究チームではアントレプレナーシップを「変化をチャンスと捉え、自ら進んで行動し、価値を生み出すことができるためのマインドやスキル」と定義し、教育プログラムの構築や実践をしている。

1. 2. 我が国におけるアントレプレナーシップ教育の現状

アントレプレナーシップ教育は、ビジネス要素が必要であるという考えのもと、大学及び大学院以上での導入や実践から始まった。大学教育においては、文部科学省により2014～2016年度には起業に挑戦する人材や産業界でイノベーションを興す人材の育成プログラムの開発・実施を目指したグローバルアントレプレナー育成促進事業（EDGE）が実施され、2017～2021年度では学生等によるアイデア創出に留まらず、実際に起業まで行える実践プログラムの構築、アントレプレナー育成に必須の新たなネットワーク構築等を通じて我が国全体のアントレプレナーシップ醸成、ベンチャー創出力の強化をはかる目的で次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）が実施された。

近年では初等・中等教育においてもアントレプレナーシップ教育の導入効果が議論されている。文部科学省は小・中学校では「社会的・職業的自立を促すキャリア教育」の一環として起業体験推進事業が推し進められおり、アントレプレナーの裾野拡大を目指し、小中高生も対象としたアントレプレナーシップ教育を重点課題として設置し、2023年度から取り組みが開始されている（EDGE-PRIME Initiative）。また、首相官邸における教育再生実行会議（第七次提言）（2015）では「自ら企画し、高い志を持ち、多様な他者と協働しながら新しい価値を生み出す主体性や創造性の必要性」が指摘され、キャリア教

育の一環として「アントレプレナーシップ・資質・能力」を有する人材育成のモデル構築への取組みが提言されている。これは先述した広義解釈したアントレプレナーシップ教育の重要性が高まっていることを示している。

1. 3. 初等・中等教育におけるアントレプレナーシップ教育

1. 3. 1. 初等・中等教育のアントレプレナーシップ教育の先行研究

大江と杉山は初等教育における「体験を通じたアントレプレナーシップ教育」の重要性を主張しており、起業家体験プログラムを実践した。起業家体験プログラムであるものの「起業家を育成するためのものではない」と断言している⁶⁾。加えて、平井は、アントレプレナーシップ教育においては、仲間と意思疎通を図るコミュニケーション能力、コスト意識、責任感や達成感を学ぶことが重要であると論じており、小中高校生の中に教育を開始するのが良いと結論付けている⁷⁾。しかし、我が国においては、授業のカリキュラムに体系づけることと、指導者の育成が今後の課題であるとも指摘している。経済産業省の指導事例集『「生きる力」を育む起業家教育のススメ』によると、サンプル235校のうち10.2%の小学校で、334校のうち32.9%の中学校で、58校のうち43.1%の高校で起業家教育が実施されていることが示されており、高校に対して小中学校での導入が進んでいないことが確認できる⁸⁾。保田では、米国との比較から日本の初等教育の場合は、新たなカリキュラムの導入余地が限られていること、また指導できる人材も手薄なことから、アントレプレナーシップ教育の導入ハードルが高いことを指摘している⁹⁾。

川名は、起業家教育については、様々な能力や知識が関係するため、小学校から大学まで、子供・学生の成長に応じて、よりの確に、効率的、効果的に行えるように、計画的に行っていくことが必要であると述べている¹⁰⁾。また、政府の『若者の自立・挑戦のためのアクションプラン（改訂版）』では、「小学校から大学・大学院まで、地域や産業界との密接な連携による、体系的な人材育成の推進」が3つのポイントの1つとなっており、「大学等において高い職業意識の醸成を目的とした、実践的かつ体系的なキャリア教育推進のための組織

的な取組を支援する」とある¹¹⁾。一方で、石黒でも指摘があるように、従来のアントレプレナーシップ教育の取り組みは各学校の自主的な活動や、国や地方自治体によるモデル事業が中心で、未だ学校教育の現場に定着しているわけではなく、その原因の1つに、初等・中等教育の現場に受け容れられるのに必要な教育によって得られる効果を明確に示されていないという点がある¹²⁾。

1. 3. 2. 初等・中等教育におけるアントレプレナーシップ教育の課題

前節から、初等・中等教育でのアントレプレナーシップ教育がより求められているものの、現行の学校カリキュラムでの限られた実施余地と指導者人材不足に起因するアントレプレナーシップ教育導入における課題があることを確認した。現行の国や地方自治体のモデル事業は、民間企業、団体が構築したワークショップやイベントを実施することが大半であり、学校の枠組みを超えて参加できるため、年齢や地域の異なる人と関わる機会としても効果的である。こういった取り組みは上記の課題への対応策として有効である一方、初等・中等教育を対象としたアントレプレナーシップ教育プログラムの種類は多くなく、教育効果を明確に示されているものもあまりない。学校外部のアントレプレナーシップ教育プログラムを初等・中等教育の現場への導入するにあたり、教育効果が明示された教育プログラムの種類を増やし、学校毎に求める教育効果からプログラムを選択できる体制整備が必要と考える。そのため、既存の個々のプログラムの効果検証により、教育現場で受け容れられる教育効果の明示と、現行のプログラムで不足しているアントレプレナーシップの構成要素を明らかにすることで、更なる初等・中等教育段階におけるプログラム開発の指針を示すことができると考えられる。一方で、アントレプレナーシップ教育の体系化に関する議論がされているものの、その連続性に関わる具体例は少なく、特に初等・中等教育を一体としたアントレプレナーシップ教育プログラムもあまり例を見ない。そのため、今後の小学校から大学、大学院及び地域・産業界まで密接に連携した体系的なプログラム構築のために初等・中等教育を一体としたアントレプレナーシップ教育プログラムの効果検証事例が必要であると考えられる。

1. 4. 本研究の目的

我々の研究チームでは、これまでに大学にてアントレプレナーシップ教育を担当し、座学形式のビジネス基礎科目、PBL形式でデザインシンキングやアートシンキングを活用した講義を実践してきた。これらのノウハウの蓄積がある点とアントレプレナーシップ教育を受講した大学生との連携が図れる点を活用し、初等・中等教育を一体としたアントレプレナーシップ教育を実施できないかと考えた。そこで初等・中等教育を対象とした実践的かつ効果的なアントレプレナーシップ教育機会の提供、将来的なアントレプレナーシップ教育プログラムの充実と体系的なアントレプレナーシップ教育プログラム構築のために、初等・中等教育段階におけるアントレプレナーシップ教育プログラムの効果検証を実施した。

2. 教育プログラムの設計

2. 1. 育成するコンピテンシーの設定

アントレプレナーシップの構成要素として、European commissionでは、図1に示す、Entre Compのフレームワークを提示し¹³⁾、表1で示す15のコンピテンシーを示している。本来は日本の教育や社会の実情を鑑み、日本版フレームワークやコンピテンシーを構築する必要がある。しかし、我が国におけるアントレプレナーシップ教育は欧米に対して遅れをとっているのが実情であり、それらの構築には至っていない。将来的な日本のアントレプレナーシップのコンピテンシーを構築するにあたり、実践研究の蓄積が必要であり、本研究もその一助となると考えている。今回は、Entre Compを基本とし、そのコンピテンシーから日本の学校教育で重視されている観点や日本のアントレプレナーシップ教育プログラムの現状を考慮した上で抽出し、育成するコンピテンシーとすることにした。現行の学習指導要領では、子供たちの「生きる力」の育成は継続的な目標としている一方で、自らで課題発見、学び、考え、判断し行動する能力の醸成を新たに掲げ、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラー

ニング)を重視している¹⁴⁻¹⁶⁾。また、起業家教育についても起業家精神(チャレンジ精神, 創造性, 探求心等)と起業家の資質・能力(情報収集・分析力, 判断力, 実行力, リーダーシップ, コミュニケーション能力等)を有する人材を育成する教育であるとし実施を推進している。また, 初等・中等教育段階におけるプログラムは, 参加者にとって初めてアントレプレナーシップを学ぶ機会となることが多いことを考慮する必要がある。Lackéusは, アントレプレナーシップ教育プログラムのプログレッションモデルに基づき, その達成に向け中心的な役割を果たすと考えられる側面を組み込んだ統一モデルを示している¹⁷⁾。このモデルにおいて, 最初の段階においては, チームベースの価値創造の取り組みやアクションベースの実践を通じた, 自己効力感の醸成が推奨されている。以上の点から, 15のコンピテンシーの中でも特にmotivation and perseverance, taking the initiative, planning and management, learning through experienceに注目することにした。

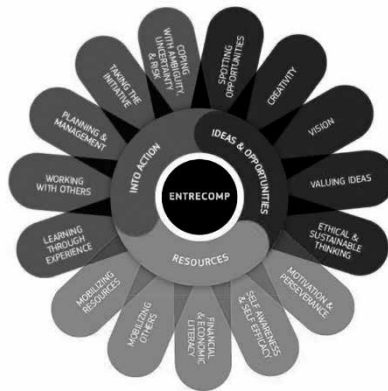


図1 Entre Compが示すフレームワーク (Entre Comp, 2019)

表1 アントレプレナーシップの構成要素

項目	キーワード
spotting opportunities	「満たすべきニーズや課題の特定」「価値創造の機会創出」
creativity	「革新的アプローチの探求」「知識や資源を組み合わせる価値創出」
vision	「未来を想像」「ビジョンの策定」「未来のシナリオを視覚化」
valuing ideas	「社会的、文化的、環境的な観点から価値を判断」「可能性の最大化」
ethical and sustainable thinking	「価値の影響を評価」「目標の持続可能性を検討」「責任を持った行動」
self-awareness and self-efficacy	「個人と組織の強みや弱みを特定」「自分の能力を信じる」
motivation and perseverance	「アイデアを行動に」「忍耐強く挑戦し続ける」「一時的な失敗に負けない」
mobilizing resources	「リソースの入手と管理」「資源の最大化」「能力の管理」
financial and economic literacy	「コストを見積もる」「財務計画の評価」「資金の管理」
mobilizing others	「ステークホルダーを鼓舞」「リーダーシップ」「コミュニケーション」
taking the initiative	「チャレンジ」「自律した行動」「意思を貫く」「タスクの遂行」
planning and management	「目標を設定」「優先順位と行動計画の決定」「予期せぬ変化への対応」
coping with uncertainty ambiguity and risk	「リスクを含む意思決定を下す」「リスクテイク」「柔軟な対応」
working with others	「他社との協力・協調」「競争に立ち向かう」「対立の解決」
learning through experience	「学習機会として活用」「他者と共に学ぶ」「成功と失敗から学ぶ」

2. 2. 教育アプローチ方法

Lackéusによると、起業家教育は、3つのアプローチに分類される。1つ目は、アントレプレナーシップという現象を一般的に理解させることを目的とした、内容豊富で理論的なアプローチを意味するアントレプレナーシップ「について」教える。2つ目は、起業家を目指す人々に必要な知識やスキルを与えることを目的とした、職業志向のアプローチを意味するアントレプレナーシップの「ために」教えるである。3つ目は、実際の起業家としての学習プロセスを経る、プロセスに基づく、経験的なアプローチを意味するアントレプレナーシップを「通して」教えるである¹⁸⁾。Lackéusのレポートでは、アントレプレナーシップの広義の意味に寄り添い、起業家精神と起業家的資質・能力を一般の他の科目に組み込むことで、アントレプレナーシップを「通して」教えることができる」と述べている。そして、アントレプレナーシップに「について」「ために」のアプローチは、主に中高教育レベルの学生の一部のみに関連するものであるが、アントレプレナーシップを「通して」学ぶ組み込み型のアプローチとは、すべての学生、すべての教育レベルに関連することができるとしている¹⁷⁾。また、渡邊らの研究においても、起業を疑似体験するプログラムについては、仕事を通じた夢や目標に有意にプラスの影響を及ぼすとも述べられている¹⁹⁾。

以上より、今回は初等・中等教育を対象としているため、アントレプレナーシップを「通して」教えることができるプログラムに注目し、且つこれからの夢や目標にプラスの影響を与えられる起業を疑似体験できるプログラムの実施を検討した。

2. 3. プログラムの選定

先述した重視するコンピテンシーを醸成できること及び、起業体験できるプログラムとして、「アントレクエスト」を選定した。アントレクエストは株式会社Armoryが開発し、運営実施をしている起業体験型プログラムで、対象が小学校5年生から中学3年生までであり、初等・中等教育を対象としている。本プログラムは参加者に起業体験を通して、未来への好奇心やそのための行動

の第一歩を涵養することを目的としたアントレプレナーシップ教育プログラムである。起業体験型プログラムであることに加えて、プログラム内でアイデア創出のフェーズがあること、目標を設定し、チャレンジすることが盛り込まれており、それらをチームで行うため、注目したコンピテンシーを満たしていると判断した。

3. 実施方法

3. 1. 開催情報

札幌市及び周辺地域の小学校5，6年生と中学生を対象に「アントレクエスト 未来への好奇心を育む」を2023年8月8日に第1回，2023年11月23日に第2回を開催した。札幌市は人口196万人（2023年12月時点）で，小学校及び中学校の生徒数はそれぞれ約90,000人，45,000人であり，人口が多いにもかかわらず首都圏と比較して学外の教育イベントの機会が少ないため機会提供インパクトが大きいことが予想される点から札幌市を対象地域とした。

3. 2. プログラム参加者

参加者はチラシを市内の小中学校に配布し，募集を行った。募集期間は開始前約1か月前である。各回定員50名に対して定員を超える応募があり，特に第2回について200名近い応募があり，多くの関心を受けたプログラムである。参加者の選定について，応募者全体を学年と性別で分類し，参加者の学年と性別の比率が応募者全体と同様になるように調整した上で抽選した。また，参加者の所属学校を可能な限りでばらつくように設定し，参加者が周囲に広めることでより多くの小中学校に取り組みが広がることを期待した。第1回及び第2回，合計の参加者は表2の通りである。両回を比較すると第1回は中学生の参加者割合が多く，第2回は小学生の参加者割合が多くなっている。

表2 プログラム参加者

	第1回			第2回			合計		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
小学5年生	5	2	7	13	10	23	18	12	30
小学6年生	4	3	7	8	5	13	12	8	20
中学1年生	9	7	16	3	3	6	12	10	22
中学2年生	4	8	12	2	2	4	6	10	16
中学3年生	3	5	8	2	2	4	5	7	12
小計	25	25	50	28	22	50	53	47	100

3. 3. プログラム内容

参加者は10チームに分かれ、1チームは参加者5人とファシリテーションの役割を担う大学生フェロー1人ないしは2人で構成され、プログラム全体では会社設立から商品販売まで起業の一連の流れを疑似体験できるように設計している。目的意識を明確化するために、起業の流れにおける各段階を章立てして区切るようにしている。全体スケジュールを表3に示す。

詳細な内容について、テーマ発表では、各チームが設立する会社が開発する商品のテーマを発表する。1章では大学生フェローによるプログラムの全体説明と会社名と役割分担を行う。役割分担について参加者5名にはそれぞれ表4に示す役割が与えられる。チームビルディングを通じた自分の強みの理解、コミュニケーション力、リーダーシップ力を身につけることを目標にしている。2章では、保護者や大学生フェローにインタビューするなどして、テーマについてどのような困りごとやニーズがあるかを調べることで、世の中の困りごとや解決したい課題を考えることでリサーチ力やマーケティング力を身につけることを目標にしている。3章では、2章で考えた課題やニーズに対応したアイデア創出を行い、発想力やアイデア構築力を養う機会としている。4章は穴埋め形式のワークシートを用いて、事業計画を策定することで論理的思考とビジネ

ス知識の一端を学ぶ設計としている。5章では、銀行役に自分たちのアイデアや事業計画を説明し資金調達するフェーズである。相手に自分たちの考えを説明するプレゼンテーションの機会としている。また、今回のプログラムでは、実際の銀行員に協力いただき、参加者に現実に近い体験を提供した。

表3 当日の全体スケジュール

9:45	開場
10:00	オープニング
10:15	テーマ発表
10:30	1章：会社設立
11:30	2章：市場調査
12:00	休憩
12:30	3章：商品デザイン
13:15	4章：事業計画書作成
14:00	5章：資金調達
15:00	6章：商品宣伝（発表）
16:00	7章：商品購入
16:30	7章：決算
16:50	8章：振り返り

表4 チーム内役割分担

役職	役割
社長	チームを良くするために会社全体をまとめる
会計マネージャー	資金調達などお金の計算と管理をする
宣伝マネージャー	商品の魅力を届けるために注力する
商品開発マネージャー	顧客の気持ちを考え、商品アイデアを開発する
仕入れマネージャー	商品アイデアを形にするための材料管理

6章ではアイデアを1枚の模造紙にまとめて他チームにPR（発表）を行う。

5章が資金提供者に対してプレゼンテーションだったのに対して、6章は顧客に対して魅力を伝えるプレゼンテーションで対比の構造になっている。これらにより、伝える相手をイメージして価値を伝える方法を考える機会となっている。7章では参加者が顧客となり、他チームの商品で価値を感じたものを購入しつつ、自チームの商品を販売し、その結果を決算する。購入経験はそれぞれの参加者が、自分が何に価値を感じるか考える機会となり、販売と決算の経験は自分たちのアイデアが他者に価値として認められる経験ができる。最後の8章では、プログラム全体での成功もしくは失敗経験を分析し、チームで共有し、今回の経験が今後の自分の生活にどう活かすかを考える。

3. 4. 効果検証方法

参加者は受講前と受講後の2回アンケート調査を行った。目的、方法、参加は自由意志で拒否による不利益はないこと、および、個人情報保護について、説明を記載し同意が得られる方のみ回答を促した。収集したデータは、個人が特定されないよう処理し、配慮した。

参加者に実施したアンケートの質問項目は表5に示す通りである。各項目について、強い肯定、肯定、どちらでもない、否定、強い否定の5段階評価で回答する形式とした。質問1から11までは受講前後での意識や考えの変容が評価できるようにそれぞれ対応させている。質問1は将来に関する質問、質問2から5は起業に関する質問をし、初等・中等教育段階における起業体験型プログラムの受講が狭義的なアントレプレナーシップ教育にもたらす効果の検証を目的としている。質問6については、プログラム内で説明したアントレプレナーシップへの理解を問い、質問7から11ではプログラム受講が広義的なアントレプレナーシップ教育にもたらす効果の検証を目的としている。質問12以降は、受講後のみの質問項目であり、質問12、13は今回のプログラムから得たことを今後どのように活かそうと考えているかを調査するものである。質問14から16は参加者のプログラムに関する質問を聞き、本取り組みの継続実施に関わる項目についても質問を行った。

表5 参加者アンケートの質問項目

Q	受講前質問項目	受講後質問項目
1	将来つきたい仕事や、やりたいことのイメージは持っていますか？	
2	現在起業への興味はありますか？	
3	起業について考えたことがありますか？	
4	起業は自分に関係のないことだと思いますか？	
5	起業は自分にもできると思いますか？	
6	アントレプレナーシップ教育について理解していますか？	
7	失敗することは良くないことだと思いますか？	
8	何か新しいことを始めたいと思いますか？	
9	どんなことも頑張ればできるようになると思いますか？	
10	普段から難しいことにも挑戦していますか？	
11	普段からニュースなどを見ていますか？	
12		新たに発見したことや知ったことは、今後の生活にも活かせると思いますか？
13		継続的に起業について学びたいと思いましたか？
14		プログラムは理解できましたか？
15		プログラムの内容は興味深かったですか？
16		プログラムの流れやワークシートなどの資料は適切でしたか？

4. 結 果

4. 1. 受講前アンケート調査結果

第1回の受講前アンケートの有効回答数は34, 第2回は49であった。回答者の属性を表6に示す。各項目の第1回の回答を表7に, 第2回の回答を表8に, 合算した回答を表9に示す。第1回は中学生の参加割合が多く, 対して第2回は小学生の参加者割合が多くなっているが, 割合に差異はあるものの回答の傾

向が異なることはなかった。本プログラムは起業体験型プログラムと説明した上で、参加者の募集を行っているため、起業に興味がある参加者が全体の53%を、起業が自分にも関係あると思っている割合は全体の57%を占めており、全体の半分以上が起業への興味関心を強く持っていることがわかる。これに対して、起業について考えたことがある参加者は31%、起業は自分にもできることだと考えている割合は45%であり、具体的な行動をしていたりや自信を持っている参加者は全体の半以下である。加えて、アントレプレナーシップ教育を理解していると答えたのは10%であり、札幌市の小学生、中学生に対してアントレプレナーシップ教育に接する機会が多くないことを示している。一方で、広義のアントレプレナーシップにあたる質問7から10についてはいずれも70%以上が肯定的な回答をしており、アントレプレナーシップを醸成する土壌がある程度持った参加者が多いことがわかる。

表6 事前アンケート回答者の属性

	第1回			第2回			合計		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
小学5年生	5	1	6	13	10	23	18	11	29
小学6年生	0	3	3	8	5	13	8	8	16
中学1年生	8	5	13	3	3	6	11	8	19
中学2年生	4	3	7	2	2	4	6	5	11
中学3年生	1	4	5	2	1	3	3	5	8
小計	18	16	34	28	21	49	46	37	83

表7 第1回事前アンケート結果

Q1 将来つきたい仕事や、やりたいことのイメージは持っていますか？				Q2 現在起業に関して興味はありますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	しっかりとある	7	20.6	1	とても興味がある	7	20.6
2	ある	15	44.1	2	興味がある	12	35.3
3	どちらともいえない	5	14.7	3	どちらともいえない	11	32.4
4	あまりない	5	14.7	4	あまり興味がない	4	11.8
5	全くない	2	5.9	5	興味がない	0	0.0
Q3 起業について考えたことがある				Q4 起業は自分に関係のないことだと思いますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とても考えている	6	17.6	1	とてもそう思う	0	0.0
2	考えている	8	23.5	2	そう思う	1	2.9
3	どちらともいえない	10	29.4	3	どちらともいえない	12	35.3
4	あまり考えたことがない	9	26.5	4	あまりそう思わない	14	41.2
5	全く考えたことがない	1	2.9	5	全くそう思わない	7	20.6
Q5 起業は自分にもできると思えますか？				Q6 アントレプレナーシップ教育について理解していますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	5	14.7	1	とてもそう思う	0	0.0
2	そう思う	12	35.3	2	そう思う	3	8.8
3	どちらともいえない	13	38.2	3	どちらともいえない	11	32.4
4	あまりそう思わない	4	11.8	4	あまりそう思わない	13	38.2
5	全くそう思わない	0	0.0	5	全くそう思わない	7	20.6
Q7 失敗することは良くないことだと思いますか？				Q8 何か新しいことを始めたいと思いますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	1	2.9	1	とてもそう思う	13	38.2
2	そう思う	2	5.9	2	そう思う	15	44.1
3	どちらともいえない	4	11.8	3	どちらともいえない	6	17.6
4	あまりそう思わない	16	47.1	4	あまりそう思わない	0	0.0
5	全くそう思わない	11	32.4	5	全くそう思わない	0	0.0
Q9 どんなことも頑張ればできるようになると思えますか？				Q10 普段から難しいことにも挑戦していますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	12	35.3	1	とてもそう思う	6	17.6
2	そう思う	15	44.1	2	そう思う	17	50.0
3	どちらともいえない	5	14.7	3	どちらともいえない	8	23.5
4	あまりそう思わない	1	2.9	4	あまりそう思わない	3	8.8
5	全くそう思わない	1	2.9	5	全くそう思わない	0	0.0
Q11 普段からニュースなどを見ていますか？							
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)				
1	とてもそう思う	14	41.2				
2	そう思う	9	26.5				
3	どちらともいえない	6	17.6				
4	あまりそう思わない	5	14.7				
5	全くそう思わない	0	0.0				

表8 第2回事前アンケート結果

Q1 将来つきたい仕事や、やりたいことのイメージは持っていますか？				Q2 現在起業に関して興味はありますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	しっかりとある	5	10.2	1	とても興味がある	3	6.3
2	ある	20	40.8	2	興味がある	22	45.8
3	どちらともいえない	10	20.4	3	どちらともいえない	14	29.2
4	あまりない	11	22.4	4	あまり興味がない	9	18.8
5	全くない	3	6.1	5	興味がない	0	0.0
Q3 起業について考えたことがある				Q4 起業は自分に関係のないことだと思いますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とても考えている	2	4.1	1	とてもそう思う	3	6.1
2	考えている	10	20.4	2	そう思う	2	4.1
3	どちらともいえない	11	22.4	3	どちらともいえない	18	36.7
4	あまり考えたことがない	22	44.9	4	あまりそう思わない	19	38.8
5	全く考えたことがない	4	8.2	5	全くそう思わない	7	14.3
Q5 起業は自分にもできると思えますか？				Q6アントレプレナーシップ教育について理解していますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	3	6.1	1	とてもそう思う	1	2.0
2	そう思う	17	34.7	2	そう思う	4	8.2
3	どちらともいえない	20	40.8	3	どちらともいえない	19	38.8
4	あまりそう思わない	6	12.2	4	あまりそう思わない	10	20.4
5	全くそう思わない	3	6.1	5	全くそう思わない	15	30.6
Q7 失敗することは良くないことだと思いますか？				Q8 何か新しいことを始めたいと思いますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	0	0.0	1	とてもそう思う	14	28.6
2	そう思う	2	4.1	2	そう思う	22	44.9
3	どちらともいえない	6	12.2	3	どちらともいえない	7	14.3
4	あまりそう思わない	21	42.9	4	あまりそう思わない	5	10.2
5	全くそう思わない	20	40.8	5	全くそう思わない	1	2.0
Q9 どんなことも頑張ればできるようになると思えますか？				Q10 普段から難しいことに挑戦していますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	19	38.8	1	とてもそう思う	4	8.2
2	そう思う	21	42.9	2	そう思う	19	38.8
3	どちらともいえない	6	12.2	3	どちらともいえない	12	24.5
4	あまりそう思わない	2	4.1	4	あまりそう思わない	10	20.4
5	全くそう思わない	1	2.0	5	全くそう思わない	4	8.2
Q11 普段からニュースなどを見ていますか？							
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)				
1	とてもそう思う	10	20.4				
2	そう思う	27	55.1				
3	どちらともいえない	2	4.1				
4	あまりそう思わない	5	10.2				
5	全くそう思わない	5	10.2				

表9 事前アンケート合算結果

Q1 将来つきたい仕事や、やりたいことのイメージは持っていますか？				Q2 現在起業に関して興味はありますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	しっかりとある	12	14.5	1	とても興味がある	10	12.0
2	ある	35	42.2	2	興味がある	34	41.0
3	どちらともいえない	15	18.1	3	どちらともいえない	25	30.1
4	あまりない	16	19.3	4	あまり興味がない	13	15.7
5	全くない	5	6.0	5	興味がない	0	0.0
Q3 起業について考えたことがある				Q4 起業は自分に関係のないことだと思いますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とても考えている	8	9.6	1	とてもそう思う	3	3.6
2	考えている	18	21.7	2	そう思う	3	3.6
3	どちらともいえない	21	25.3	3	どちらともいえない	30	36.1
4	あまり考えたことがない	31	37.3	4	あまりそう思わない	33	39.8
5	全く考えたことがない	5	6.0	5	全くそう思わない	14	16.9
Q5 起業は自分にもできると思えますか？				Q6 アントレプレナーシップ教育について理解していますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	8	9.6	1	とてもそう思う	1	1.2
2	そう思う	29	34.9	2	そう思う	7	8.4
3	どちらともいえない	33	39.8	3	どちらともいえない	30	36.1
4	あまりそう思わない	10	12.0	4	あまりそう思わない	23	27.7
5	全くそう思わない	3	3.6	5	全くそう思わない	22	26.5
Q7 失敗することは良くないことだと思いますか？				Q8 何か新しいことを始めたいと思いますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	1	1.2	1	とてもそう思う	27	32.5
2	そう思う	4	4.8	2	そう思う	37	44.6
3	どちらともいえない	10	12.0	3	どちらともいえない	13	15.7
4	あまりそう思わない	37	44.6	4	あまりそう思わない	5	6.0
5	全くそう思わない	31	37.3	5	全くそう思わない	1	1.2
Q9 どんなことも頑張ればできるようになると思えますか？				Q10 普段から難しいことにも挑戦していますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	31	37.3	1	とてもそう思う	10	12.0
2	そう思う	36	43.4	2	そう思う	36	43.4
3	どちらともいえない	11	13.3	3	どちらともいえない	20	24.1
4	あまりそう思わない	3	3.6	4	あまりそう思わない	13	15.7
5	全くそう思わない	2	2.4	5	全くそう思わない	4	4.8
Q11 普段からニュースなどを見ていますか？							
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)				
1	とてもそう思う	24	28.9				
2	そう思う	36	43.4				
3	どちらともいえない	8	9.6				
4	あまりそう思わない	10	12.0				
5	全くそう思わない	5	6.0				

4. 2. 受講後アンケート調査結果

第1回の受講後アンケートの有効回答数は34、第2回は44であった。回答者の属性を表10に示す。各項目の第1回の回答を表11に、第2回の回答を表12に、合算した回答を表13に示す。受講前でも全体の半分以上が起業に興味関心がある状態だったが、受講後に起業に興味がある参加者が全体の88%を、起業が自分にも関係あると思っている割合は全体の82%まで増え、全体の80%以上が起業への興味関心を強く持っていることがわかる。更に、受講前は起業について、具体的な行動をしていたりや自信を持っている参加者は全体の半分以下であったが、起業について考えたことがある参加者は82%、起業は自分にもできることだと考えている参加者は80%まで増え、起業体験型プログラムによる一連の起業体験が具体的な行動の促進や自信の醸成に繋がっていることが分かる。受講前にアントレプレナーシップ教育を理解していると答えたのは10%であったが、受講後には74%の参加者がアントレプレナーシップ教育の理解が深まっていることがわかった。これに伴い、広義のアントレプレナーシップにあたる質問7から10についてはいずれも元々70%以上が肯定的な回答をしていたが、受講後は80%程度に上昇し、起業に関する質問に対して増加率は低いものの、意識変容が確認された結果となった。質問12から本プログラムの経験は起業のみ

表10 事後アンケート回答者の属性

	第1回			第2回			合計		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
小学5年生	3	1	4	10	9	19	13	10	23
小学6年生	2	1	3	8	5	13	10	6	16
中学1年生	7	4	11	3	2	5	10	6	16
中学2年生	5	5	10	2	2	4	7	7	14
中学3年生	2	4	6	2	1	3	4	5	9
小計	19	15	34	25	19	44	44	34	78

表11 第1回事後アンケート結果

Q1 将来つきたい仕事や、やりたいことのイメージはつきましましたか？				Q2 今回のプログラムで起業への興味は高まりましたか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもついた	12	34.3	1	とても高まった	18	51.4
2	ついた	9	25.7	2	高まった	13	37.1
3	どちらともいえない	11	31.4	3	どちらともいえない	2	5.7
4	あまりつかなかった	3	8.6	4	あまり高まらなかった	2	5.7
5	全くつかなかった	0	0.0	5	全く高まらなかった	0	0.0
Q3 起業を考えるきっかけになりましたか？				Q4 起業は自分に関係のないことだと思いますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	19	54.3	1	とてもそう思う	1	2.9
2	そう思う	11	31.4	2	そう思う	0	0.0
3	どちらともいえない	4	11.4	3	どちらともいえない	4	11.4
4	あまりそう思わない	0	0.0	4	あまりそう思わない	12	34.3
5	全くそう思わない	1	2.9	5	全くそう思わない	18	51.4
Q5 起業は自分にもできると思いますか？				Q6 アントレプレナーシップ教育について理解できましたか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	15	42.9	1	とてもそう思う	18	51.4
2	そう思う	17	48.6	2	そう思う	13	37.1
3	どちらともいえない	3	8.6	3	どちらともいえない	3	8.6
4	あまりそう思わない	0	0.0	4	あまりそう思わない	1	2.9
5	全くそう思わない	0	0.0	5	全くそう思わない	0	0.0
Q7 失敗することは良くないことだと思いますか？				Q8 何か新しいことを始めたいと思いますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	1	2.9	1	とてもそう思う	25	71.4
2	そう思う	4	11.4	2	そう思う	8	22.9
3	どちらともいえない	3	8.6	3	どちらともいえない	2	5.7
4	あまりそう思わない	8	22.9	4	あまりそう思わない	0	0.0
5	全くそう思わない	19	54.3	5	全くそう思わない	0	0.0
Q9 どんなことも頑張ればできるようになると思いますか？				Q10 普段から難しいことにも挑戦していこうと思いますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	25	71.4	1	とてもそう思う	19	54.3
2	そう思う	8	22.9	2	そう思う	10	28.6
3	どちらともいえない	2	5.7	3	どちらともいえない	4	11.4
4	あまりそう思わない	0	0.0	4	あまりそう思わない	2	5.7
5	全くそう思わない	0	0.0	5	全くそう思わない	0	0.0
Q11 普段からニュースなどを見ようと思いますか？				Q12 新たに発見したことや知ったことは、今後の生活にも活かせると思いますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	20	57.1	1	とてもそう思う	30	85.7
2	そう思う	8	22.9	2	そう思う	2	5.7
3	どちらともいえない	5	14.3	3	どちらともいえない	1	2.9
4	あまりそう思わない	2	5.7	4	あまりそう思わない	2	5.7
5	全くそう思わない	0	0.0	5	全くそう思わない	0	0.0
Q13 継続的に起業について学びたいと思いましたか？				Q14 プログラムは理解できましたか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	18	51.4	1	とてもそう思う	26	74.3
2	そう思う	13	37.1	2	そう思う	7	20.0
3	どちらともいえない	3	8.6	3	どちらともいえない	2	5.7
4	あまりそう思わない	1	2.9	4	あまりそう思わない	0	0.0
5	全くそう思わない	0	0.0	5	全くそう思わない	0	0.0
Q15 プログラムの内容は興味深かったですか？				Q16 プログラムの流れやワークシートなどの資料は適切でしたか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	25	71.4	1	とてもそう思う	22	62.9
2	そう思う	8	22.9	2	そう思う	11	31.4
3	どちらともいえない	2	5.7	3	どちらともいえない	2	5.7
4	あまりそう思わない	0	0.0	4	あまりそう思わない	0	0.0
5	全くそう思わない	0	0.0	5	全くそう思わない	0	0.0

表12 第2回事後アンケート結果

Q1 将来つきたい仕事や、やりたいことのイメージはつきましましたか？				Q2 今回のプログラムで起業への興味は高まりましたか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもついた	11	25.0	1	とても高まった	19	43.2
2	ついた	20	45.5	2	高まった	20	45.5
3	どちらともいえない	9	20.5	3	どちらともいえない	3	6.8
4	あまりつかなかった	3	6.8	4	あまり高まらなかった	2	4.5
5	全くつかなかった	1	2.3	5	全く高まらなかった	0	0.0
Q3 起業を考えるきっかけになりましたか？				Q4 起業は自分に関係のないことだと思いますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	21	47.7	1	とてもそう思う	2	4.5
2	そう思う	14	31.8	2	そう思う	0	0.0
3	どちらともいえない	7	15.9	3	どちらともいえない	7	15.9
4	あまりそう思わない	1	2.3	4	あまりそう思わない	16	36.4
5	全くそう思わない	1	2.3	5	全くそう思わない	19	43.2
Q5 起業は自分にもできると思いますか？				Q6 アントレプレナースHIP教育について理解できましたか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	16	36.4	1	とてもそう思う	16	37.2
2	そう思う	15	34.1	2	そう思う	19	44.2
3	どちらともいえない	10	22.7	3	どちらともいえない	7	16.3
4	あまりそう思わない	2	4.5	4	あまりそう思わない	0	0.0
5	全くそう思わない	1	2.3	5	全くそう思わない	1	2.3
Q7 失敗することは良くないことだと思いますか？				Q8 何か新しいことを始めたいと思いますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	2	4.5	1	とてもそう思う	23	52.3
2	そう思う	2	4.5	2	そう思う	13	29.5
3	どちらともいえない	4	9.1	3	どちらともいえない	5	11.4
4	あまりそう思わない	11	25.0	4	あまりそう思わない	3	6.8
5	全くそう思わない	25	56.8	5	全くそう思わない	0	0.0
Q9 どんなことも頑張ればできるようになると思いますか？				Q10 普段から難しいことにも挑戦していこうと思いますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	23	52.3	1	とてもそう思う	22	50.0
2	そう思う	13	29.5	2	そう思う	16	36.4
3	どちらともいえない	5	11.4	3	どちらともいえない	3	6.8
4	あまりそう思わない	3	6.8	4	あまりそう思わない	3	6.8
5	全くそう思わない	0	0.0	5	全くそう思わない	0	0.0
Q11 普段からニュースなどを見ようと思いますか？				Q12 新たに発見したことや知ったことは、今後の生活にも活かせると思いますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	20	45.5	1	とてもそう思う	27	61.4
2	そう思う	18	40.9	2	そう思う	13	29.5
3	どちらともいえない	2	4.5	3	どちらともいえない	3	6.8
4	あまりそう思わない	1	2.3	4	あまりそう思わない	1	2.3
5	全くそう思わない	3	6.8	5	全くそう思わない	0	0.0
Q13 継続的に起業について学びたいと思いましたか？				Q14 プログラムは理解できましたか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	14	31.8	1	とてもそう思う	28	63.6
2	そう思う	20	45.5	2	そう思う	15	34.1
3	どちらともいえない	7	15.9	3	どちらともいえない	1	2.3
4	あまりそう思わない	2	4.5	4	あまりそう思わない	0	0.0
5	全くそう思わない	1	2.3	5	全くそう思わない	0	0.0
Q15 プログラムの内容は興味深かったですか？				Q16 プログラムの流れやワークシートなどの資料は適切でしたか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	28	63.6	1	とてもそう思う	22	50.0
2	そう思う	13	29.5	2	そう思う	19	43.2
3	どちらともいえない	3	6.8	3	どちらともいえない	3	6.8
4	あまりそう思わない	0	0.0	4	あまりそう思わない	0	0.0
5	全くそう思わない	0	0.0	5	全くそう思わない	0	0.0

表13 事後アンケート合算結果

Q1 将来つきたい仕事や、やりたいことのイメージはつきましましたか？				Q2 今回のプログラムで起業への興味は高まりましたか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもつきた	23	29.1	1	とても高まった	37	46.8
2	つきた	29	36.7	2	高まった	33	41.8
3	どちらともいえない	20	25.3	3	どちらともいえない	5	6.3
4	あまりつかなかった	6	7.6	4	あまり高まらなかった	4	5.1
5	全くつかなかった	1	1.3	5	全く高まらなかった	0	0.0
Q3 起業を考えるきっかけになりましたか？				Q4 起業は自分に関係のないことだと思いますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	40	50.6	1	とてもそう思う	3	3.8
2	そう思う	25	31.6	2	そう思う	0	0.0
3	どちらともいえない	11	13.9	3	どちらともいえない	11	13.9
4	あまりそう思わない	1	1.3	4	あまりそう思わない	28	35.4
5	全くそう思わない	2	2.5	5	全くそう思わない	37	46.8
Q5 起業は自分にもできると思いますか？				Q6 アントレプレナーシップ教育について理解できましたか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	31	39.2	1	とてもそう思う	34	43.0
2	そう思う	32	40.5	2	そう思う	32	40.5
3	どちらともいえない	13	16.5	3	どちらともいえない	10	12.7
4	あまりそう思わない	2	2.5	4	あまりそう思わない	1	1.3
5	全くそう思わない	1	1.3	5	全くそう思わない	1	1.3
Q7 失敗することは良くないことだと思いますか？				Q8 何か新しいことを始めたいと思いますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	3	3.8	1	とてもそう思う	48	60.8
2	そう思う	6	7.6	2	そう思う	21	26.6
3	どちらともいえない	7	8.9	3	どちらともいえない	7	8.9
4	あまりそう思わない	19	24.1	4	あまりそう思わない	3	3.8
5	全くそう思わない	44	55.7	5	全くそう思わない	0	0.0
Q9 どんなことも頑張ればできるようになると思いますか？				Q10 普段から難しいことにも挑戦していこうと思いますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	48	60.8	1	とてもそう思う	41	51.9
2	そう思う	21	26.6	2	そう思う	26	32.9
3	どちらともいえない	7	8.9	3	どちらともいえない	7	8.9
4	あまりそう思わない	3	3.8	4	あまりそう思わない	5	6.3
5	全くそう思わない	0	0.0	5	全くそう思わない	0	0.0
Q11 普段からニュースなどを見ようと思いますか？				Q12 新たに発見したことや知ったことは、今後の生活にも活かせると思いますか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	40	50.6	1	とてもそう思う	57	72.2
2	そう思う	26	32.9	2	そう思う	15	19.0
3	どちらともいえない	7	8.9	3	どちらともいえない	4	5.1
4	あまりそう思わない	3	3.8	4	あまりそう思わない	3	3.8
5	全くそう思わない	3	3.8	5	全くそう思わない	0	0.0
Q13 継続的に起業について学びたいと思いましたか？				Q14 プログラムは理解できましたか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	32	40.5	1	とてもそう思う	54	68.4
2	そう思う	33	41.8	2	そう思う	22	27.8
3	どちらともいえない	10	12.7	3	どちらともいえない	3	3.8
4	あまりそう思わない	3	3.8	4	あまりそう思わない	0	0.0
5	全くそう思わない	1	1.3	5	全くそう思わない	0	0.0
Q15 プログラムの内容は興味深かったですか？				Q16 プログラムの流れやワークシートなどの資料は適切でしたか？			
回答番号	選択肢	件数	割合 (%)	回答番号	選択肢	件数	割合 (%)
1	とてもそう思う	53	67.1	1	とてもそう思う	44	55.7
2	そう思う	21	26.6	2	そう思う	30	38.0
3	どちらともいえない	5	6.3	3	どちらともいえない	5	6.3
4	あまりそう思わない	0	0.0	4	あまりそう思わない	0	0.0
5	全くそう思わない	0	0.0	5	全くそう思わない	0	0.0

ならず、様々な場面で活かせると感じたのは全体の90%を占め、同様に質問13から継続的に起業を学びたい参加者も90%近くいる。プログラムの満足度を調べるための質問14から16ではいずれも95%近い参加者が肯定的な意見を残しており、参加者にとって有意義に感じるプログラムであったことが示されている。

5. 考 察

5. 1. 教育効果の検証と要因推定

質問番号1から11について、受講前後の回答の差について検討した。得られた回答の平均値について、前後の回答の平均値の差が有意なものであるかの検証を行うために、ウェルチのt検定を実施した。回答者全体の結果を表14に示す。はじめに、平均値を比較した結果いずれの質問も起業意識、アントレプレナーシップが肯定的な変化がみられていることを確認した。なお、質問番号4と7は回答の数値が5に近づくほど肯定的な回答であり、それ以外は数値が1に近づくほど肯定的な回答である。今回は全ての質問に対してプラスの変化が起こったため、差を分かりやすくする意味で表中の各質問の平均値の差は絶対値で示している。表14から質問7を除いたすべての質問項目で有意な差が認められた。質問7については受講前の平均値が高かったため有意な差が見られなかったと考えると、本プログラムは極めてアントレプレナーシップ教育の効果が高いものだったと言える。今回の教育プログラムが高い効果を得られた要因について考察する。はじめに、質問番号6の「アントレプレナーシップ教育について理解していますか?」が特に平均値の差が大きいことから、今回の参加者は過去にアントレプレナーシップ教育プログラムへの参加経験がない、もしくは少ない人が大多数を占めていたことが考えられる。そのようなアントレプレナーシップ教育の受講経験が少ない層に対して、起業体験型プログラムが参加者にとって分かりやすく、取組みやすい内容であったため高い効果が得られたと推察される。このことから、初等教育から大学教育までの体系的なアントレプレナーシップ教育において、起業体験型のプログラムが導入段階の教育と

表14 参加者全体の受講前後での回答比較

番号	質問内容	受講前 平均値	受講後 平均値	平均値の差 (絶対値)	t検定の 結果
1	将来つきたい仕事や、やりたいことのイメージは持っていますか？	2.60	2.15	0.45	p<0.01
2	現在起業への興味はありますか？	2.49	1.70	0.80	p<0.01
3	起業について考えたことがありますか？	3.08	1.73	1.35	p<0.01
4	起業は自分に関係のないことだと思えますか？	3.63	4.22	0.59	p<0.01
5	起業は自分にもできると思えますか？	2.65	1.86	0.79	p<0.01
6	アントレプレナーシップ教育について理解していますか？	3.70	1.76	1.94	p<0.01
7	失敗することは良くないことだと思えますか？	4.12	4.20	0.08	-
8	何か新しいことを始めたいと思えますか？	1.99	1.56	0.43	p<0.01
9	どんなことも頑張ればできるようになると思えますか？	1.90	1.54	0.36	p<0.01
10	普段から難しいことにも挑戦していますか？	2.58	1.70	0.88	p<0.01
11	普段からニュースなどを見えていますか？	2.23	1.77	0.46	p<0.01

して有意義なものであることが示唆された。

次に回答者を小学生と中学生に分け、同様に受講前後の回答の差を検討した。小学生の回答の比較を表15に、中学生の回答の比較を表16に示す。平均値を比較した結果、平均値の差に違いはあるものの、いずれの質問も肯定的な変化がみられており、全体集計の結果と変わらないことを確認した。ウェルチのt検定の結果からは、有意な差が認められなかった質問は小学生では質問7、8、

表15 参加者小学生の受講前後での回答比較

番号	質問内容	受講前 平均値	受講後 平均値	平均値の差 (絶対値)	t検定の 結果
1	将来つきたい仕事や、やりたいことのイメージは持っていますか？	2.52	1.93	0.59	p<0.01
2	現在起業への興味はありますか？	2.51	1.63	0.88	p<0.01
3	起業について考えたことがありますか？	3.22	1.85	1.37	p<0.01
4	起業は自分に関係のないことだと思えますか？	3.54	4.27	0.73	p<0.01
5	起業は自分にもできると思えますか？	2.72	2.02	0.70	p<0.01
6	アントレプレナーシップ教育について理解していますか？	3.65	1.88	1.77	p<0.01
7	失敗することは良くないことだと思えますか？	4.15	4.16	0.01	-
8	何か新しいことを始めたいと思えますか？	2.04	1.68	0.36	-
9	どんなことも頑張ればできるようになると思えますか？	1.74	1.51	0.23	-
10	普段から難しいことにも挑戦していますか？	2.54	1.71	0.83	p<0.01
11	普段からニュースなどを見えていますか？	2.04	1.68	0.36	p<0.05

9であり、中学生は質問1, 7であった。質問8, 9は広義的なアントレプレナーシップについての項目であり、これらは直接的に説明機会があるようなプログラム設計にはなっておらず、プログラム全体を通して参加者に気づきとして得てもらうことを想定していた。アンケートで起業に関する質問の回答が小学生の方が中学生よりも大きく肯定的に変わったことから、小学生にはプログラムの中心である起業体験に多くの関心が集まったことが考えられる。一方、

表16 参加中学生の受講前後での回答比較

番号	質問内容	受講前 平均値	受講後 平均値	平均値の差 (絶対値)	t検定の 結果
1	将来つきたい仕事や、やりたいことのイメージは持っていますか？	2.74	2.26	0.48	-
2	現在起業への興味はありますか？	2.54	1.81	0.73	p<0.01
3	起業について考えたことがありますか？	2.97	1.67	1.30	p<0.01
4	起業は自分に関係のないことだと思えますか？	3.64	4.33	0.69	p<0.01
5	起業は自分にもできると思えますか？	2.64	1.67	0.97	p<0.01
6	アントレプレナーシップ教育について理解していますか？	3.74	1.59	2.15	p<0.01
7	失敗することは良くないことだと思えますか？	4.13	4.19	0.06	-
8	何か新しいことを始めたいと思えますか？	1.95	1.41	0.54	p<0.01
9	どんなことも頑張ればできるようになると思えますか？	2.05	1.44	0.61	p<0.01
10	普段から難しいことにも挑戦していますか？	2.62	1.78	0.84	p<0.01
11	普段からニュースなどを見えていますか？	2.46	1.89	0.57	p<0.05

中学生は質問8、9では有意な差が認められたため、中学生にとっては、起業体験だけでなく、広義的なアントレプレナーシップの気づきに繋がるプログラムであった可能性が示された。逆に中学生には将来に関する質問1では有意な差が認められなかった。これは将来や進路について考える機会、経験が小学生に比べて多いため、1度のプログラム参加では将来像が変わるまでの影響が与えられない可能性がある。

以上のことから、起業体験型プログラムがアントレプレナーシップ教育プログラムとして初等・中等教育に関わらず有意義なものであることが推定された。しかし、小学生にはプログラム中心となる体験学習の内容に関心が集まり、初等・中等教育において必要とされる広義的なアントレプレナーシップの醸成には、中学生に比べて効果が少ない可能性がある。ただ、アントレプレナーシップ教育や起業への興味関心という点では効果があるため、体系的なプログラム構築においては導入教育として適したものだと思われる。単一プログラムの教育効果のみならず導入教育という観点では、広義および狭義のアントレプレナーシップに触れることができ、各参加者がアントレプレナーシップ教育の興味や関心を持つきっかけとして活用できると考えられる。そのため、今回は実施しなかったが、プログラム中のどの体験に参加者が興味や関心を持ったか調査することで、今後のプログラムの開発指針などに活かせる可能性がある。また、初等・中等教育に関わらず一定の効果が見られたことは、アントレプレナーシップ教育プログラムを各教育段階で独立させる必要がないことを示している。即ち、初等教育から大学教育までの体系的なプログラム構築の際に、教育段階を飛び越えた連続性のあるプログラム構築を行える可能性がある。加えて、体系的なプログラム構築が確立していない段階においても、今回のように教育段階に関わらず参加対象を広く設定することで、アントレプレナーシップ教育プログラムの参加機会増加が期待される。例えば、小中学生向けに比べてプログラムが充実している高校生向けプログラムを段階的に中学生に受講できるようにすることで、小中学生のプログラム拡充や地域の教育機会の増加に繋がる可能性がある。

5. 2. 今後の検討事項

初等・中等教育を一体とした本プログラムについて、今回はいずれのチームも小学生と中学生が混成しているチーム編成としたため、小学校と中学生を混成させたことによる効果を測定することができていない。我々の研究チームで実施しているプログラムでは、過去にアントレプレナーシップ教育プログラム

に参加した大学生が小中高生向けのアントレプレナーシップ教育プログラムにファシリテーター等の立場で参加したことで、アントレプレナーシップの理解が深まったり、新たな発見を得たりした事例もある。そのため、本プログラムにおいても小学生と中学生を混成させることで年齢が上の参加者が下の参加者に伝える、教えることで更なる効果が出ている可能性がある。これらの検証を行うために、今後は同様のイベントを小学生のみや、中学生のみで実施し今回の結果と比較する必要がある。また、小中学生がアントレプレナーシップのどのコンピテンシーに関心が高いのかを調査することで、今後のプログラム拡充と体系的なプログラム構築の一助となる可能性がある。本プログラムは1日を通しての短期プログラムのため、その教育効果が一時的なものではないことを検証するために追跡調査を実施する必要がある。

6. 結 言

本論文では、第1章でアントレプレナーシップについて確認した後に、アントレプレナーシップ教育の現状と初等・中等教育を対象としたアントレプレナーシップ教育プログラムの先行研究調査を行った。初等・中等教育においてもアントレプレナーシップ教育に効果があり、必要とされているものの、現行の学校カリキュラムでの限られた余地では導入が難しいことや初等・中等教育に関する教育プログラムが少ないこと、初等教育から大学教育に至るまで体系だった教育プログラムが求められている一方で、その連続性に関わる検証データが不足していることが課題として挙げられた。そのため、そこで初等・中等教育を対象とした実践的かつ効果的なアントレプレナーシップ教育機会の提供とプログラムの拡充、将来の各教育段階を包括した体系的なアントレプレナーシップ教育プログラム構築のために、初等・中等教育段階におけるアントレプレナーシップ教育プログラムの効果検証を研究目的に設定した。第2章ではプログラム選定にあたり、初等・中等教育段階におけるアントレプレナーシップ教育プログラムの重視すべきコンピテンシーと教育アプローチ方法の検討を実

施した。重視するコンピテンシーとして、現行の学校教育や日本の実情を鑑みて、狭義的なアントレプレナーシップではなく、挑戦や行動、チームワークといった広義的なアントレプレナーシップに注目することとした。また、Lackéusのレポートから、アントレプレナーシップを「通して」教えることが、アントレプレナーシップのより広義の意味に寄り添い、起業家の特性、プロセス、経験を一般の他の科目に組み込むことができる点、また、組み込み型のアプローチは、すべての学生、すべての教育レベルに適用できるとされていること、また、渡邊らの研究においても、起業を疑似体験するプログラムは仕事を通じた夢や目標に有意にプラスの影響を及ぼすとも述べられていることを考慮し、起業体験型プログラムを選定することにした。以上の観点から起業体験型プログラム アントレクエストが最適と判断し、プログラムの実施と効果検証を行った。第3章では実施方法、第4章で結果を示した。第5章ではアンケート結果を分析し、起業体験型プログラムがアントレプレナーシップ教育プログラムとして初等・中等教育に関わらず有意義なものであることが推定された。しかし、小学生にはプログラム中心となる起業体験の内容に関心が集まり、初等・中等教育において必要とされる広義的なアントレプレナーシップの醸成という点では、中学生に比べて効果が少ない可能性がある。ただ、アントレプレナーシップ教育及び起業への興味関心の醸成という点では効果があったため、体系的なプログラム構築においては導入教育として適したものだと思われる。単一プログラムの教育効果のみならず導入教育という観点では、広義および狭義のアントレプレナーシップに触れることができ、各参加者がアントレプレナーシップ教育に興味や関心を持つきっかけとして活用できると考えられる。今回は実施しなかったが、自由記述の形式で、プログラム中のどの体験に参加者が興味や関心を持ったかを調査することで、今後のプログラムの開発指針などに活かせる可能性がある。初等・中等教育関わらず一定の効果が見られたことは、アントレプレナーシップ教育プログラムを各教育段階で独立させる必要がないことを示しており、参加対象を広くとった連続的なプログラム構築が可能であることが示唆された。

今後の検討事項について、初等・中等教育を一体とした本プログラムについて、今回はいずれのチームも小学生と中学生が混成しているチーム編成としたため、小学校と中学生を混成させたことによる効果を測定することができていない。我々の研究チームで実施しているプログラムでは、過去にアントレプレナーシップ教育プログラムに参加した大学生が小中高生向けのアントレプレナーシップ教育プログラムにファシリテーター等の立場で参加したことで、アントレプレナーシップの自身の理解が深まったり、新たな発見を得たりした事例もある。そのため、本プログラムにおいても小学生と中学生を混成させることで年齢が上の参加者が下の参加者に伝える、教えることで更なるアントレプレナーシップ教育効果が得られている可能性がある。これらの検証を行うために、今後は同様のイベントを小学生のみや中学生のみで実施し、今回の結果と比較する必要がある。

また、今回のアンケート調査は本プログラムに自ら応募してきた参加者を対象としているため、無作為に参加者を選んだ場合に比べて、興味関心が高かったことが予想される。事前アンケートの結果から参加者間には意識や考えに差異があったと考えられるが、参加者の特性に対する検討が不十分である。加えて、特定地域での2回の開催による100名の参加者を対象としているため、検証結果が一般化されていると断言はできない。そのため参加者の特性に注目した上で今回得られた知見を検証する必要がある。

最後になるが、今回得られた知見を更に深め将来的な初等教育から大学教育にいたる体系的なアントレプレナーシップ教育プログラム構築における橋頭堡を作るべく、プログラム実践及び効果検証に邁進したい。

参考文献

- 1) Cantillon, R (1756), *Essai sur la nature du commerce en général. Traduit de l'anglois*, <https://archive.org/details/essaisurlanature00cant/mode/2up>
- 2) J. A. Shcumpeter, 清成忠男編訳 (1998), 企業家とは何か, 東洋経済新報
- 3) P. F. Drucker, 上田惇生訳 (1997), イノベーションと起業家精神—その原理と方法, ダイヤモンド社
- 4) 兼本雅章 (2016), 産学連携による商品開発を通じた起業家教育とその効果, 日本情報経営学会誌, 36(4), 68-79.
- 5) 粟島浩二 (2012), 大学におけるアントレプレナーシップ教育の現状と課題 県立広島大学ベンチャービジネス 研究会の活動を中心に, 県立広島大学経営情報学部論集, (4), 131-138.
- 6) 大江建・杉山千佳 (編著) (1999), 「起業家教育」で子どもが変わる! 「ビジネスの楽しさ」を教え, 独創性と行動力を育てる, 日本経済新聞社
- 7) 平井由紀子 (2011), 若年層に対する起業家教育プログラムの開発とその有効性の検証, 早稲田大学博士論文 (甲第3268号)
- 8) 経済産業省 (2015), 「生きる力」を育む起業家教育のスズメ事例集, <https://www.meti.go.jp/policy/newbusiness/downloadfiles/jireisyu.pdf>
- 9) 保田隆明 (2022), アントレプレナーシップ教育についての一考察, 国民経済雑誌, 226(1), 97-110.
- 10) 川名和美 (2014), 我が国の起業家教育の意義と課題—「起業教育」と「起業家学習」のための「地域つながりづくり」—, 日本政策金融公庫総合研究所 日本政策金融公庫論集, 25, 59-80.
- 11) 文部科学省 (2006), 若者の自立・挑戦のためのアクションプラン (改訂版) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502/021.htm
- 12) 石黒順子 (2015), 高校生の持つ起業家とベンチャー企業のイメージ, VENTURE REVIEW, No.26 September 2015.
- 13) European Commission. (2019), EntreComp: the European Entrepreneurship Competence Framework. An official website of the European Union. Retrieved December 31, 2022, <https://ec.europa.eu/social/main.jsp?catId=738&langId=en&pubId=8201&furtherPubs=yes>
- 14) 文部科学省 (2017), 小学校学習指導要領 (平成29年告示).
- 15) 文部科学省 (2017), 中学校学習指導要領 (平成29年告示).
- 16) 文部科学省 (2017), 高等学校学習指導要領 (平成30年告示).
- 17) Lackéus, M. (2015), Entrepreneurship in education: What, why, when, how. Entrepreneurship 360, Background Paper, OECD.
- 18) Lackéus, M. (2013), Developing entrepreneurial competencies-an action-based

approach and classification in education. Licentiate thesis, Chalmers University of Technology.

- 19) 渡邊万里子・漆紫穂子・神谷岳・大江秋津 (2021), 早期アントレプレナーシップ教育が起業家コンピテンシーに及ぼす影響—長期実践事例と10年後の追跡調査による分析—, 経営情報学会2021年全国研究発表大会要旨集, pp401-404.